

人間ドック検査内容のご説明

国立病院機構東京病院

項目		ご説明
診察所見		見ることで異常がないかを判断する視診、触れて異常なものを見つける触診、聴診器を当てて異常音が聞こえないかを調べる聴診などがあります。
結果説明		当日結果が出ている項目について、担当医師により説明いたします。またご質問についてもお答えいたします。
身体測定等	身長 体重 肥満度 (BMI) 腹囲 体脂肪率	太っているかやせているか等を計測します。
	血圧	心臓のポンプ機能や血管の状態が正常かどうかわかります。
聴力検査		左右それぞれの耳で、オーディオメーターという機械から発する音を聞き、音の大きさ (単位はデシベル=DB) はどのくらいから聞こえ始めるか、2段階の音の高低で調べます。
眼科検査	視力	視力を測定します。
	眼底検査	目の奥の状態を調べる検査です。動脈硬化の程度、高血圧、糖尿病による眼の合併症や緑内障・白内障の有無などを調べます。
	眼圧検査	眼球の中は房水という液体によって圧力が保たれており、これを眼圧といいます。眼圧が高い場合は高眼圧症、または緑内障の疑いがあります。
骨塩定量検査 (超音波法)		骨の密度を計る検査が骨塩定量検査で、骨粗鬆症の診断に用いられます。踵骨 (かかとの骨) に超音波を当てて骨密度を測定する方法です。踵の骨の中を超音波が通るときの速度や量から数値を出します。X線を使わないので妊婦の測定も可能で、時間も1分程度と短くてすみません。
肺機能検査	肺気量分画 フローボリュームカーブ	肺・気管支などの状態や働きを調べる検査です。息を大きく吸い込んだり、吐き出したりします。この検査は最大限に努力した状態をみますので、何回か同じ検査を行っていただくことがあります。
胸部エックス線検査		胸部に背後からX線を照射し撮影します。肺炎、肺結核、肺がん、肺気腫、胸水、気胸など、呼吸器の疾患の有無、その程度がわかります。
腹部超音波検査		肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓などの内臓の状態をみます。詳しく観察するために体の向きを変えたり、息を吸ったり吐いたりしていただきます。原則として、空腹状態で検査を行います。
頸動脈超音波検査		頸部の血管や血流の状態を観察することによって、血管閉塞・狭窄や動脈硬化性変化がわかり、また、血管を詰まらせる血栓などの塞栓物質を検出できます。
心電図検査		心電図検査は、心臓が動いている時に出る微弱な電気を、胸と手足に付けた電極から捉えた波形を記録します。脈の乱れ (不整脈)、胸の痛み (狭心症) などの原因や病気の診断のために調べます。
上部消化管検査 (①又は②のいずれかを選択)	①食道・胃・十二指腸内視鏡検査	一般的に「胃カメラ」と呼ばれているもので、医師が内部を直接覗き込んで使用します。食道炎、食道潰瘍、食道がん、胃炎、胃潰瘍、胃がん、食道・胃の静脈瘤、十二指腸潰瘍などが発見できます。
	内視鏡下生検法 (食道・胃・十二指腸内視鏡検査選択時のみのオプション)	病気の診断のために、生体の組織や臓器から材料を採取する方法。内視鏡検査時に行われます。
	②ペプシノゲン I II	血液中のペプシノゲンのIIに対するIの割合を調べると、胃粘膜の萎縮の広がりとその程度、胃液の分泌機能、胃粘膜の炎症の有無が分かるほか、胃がんのスクリーニング検査として有用であることが明らかとなり、注目されています。「血液検査による胃がん検診」とも呼ばれています。
便潜血検査		消化管からの出血の有無を調べる検査で、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、大腸がんで陽性となるほか、痔などで出血しているときにも陽性になります。

人間ドック検査内容のご説明

国立病院機構東京病院

項目		ご説明			
尿検査 (一般定性)	蛋白	健康な人でも、ごく少量排泄されますが通常は陰性(－)です。ネフローゼ症候群、腎炎、膠原病、妊娠中毒などで陽性(＋)となります。			
	糖	健康な人でも、ごく少量排泄されますが通常は陰性です。血糖値が上昇する疾患(糖尿病、膵炎等)や腎閾値の低下などで陽性となります。			
	潜血	肉眼では見えないわずかな血尿の状態を「潜血」といい通常は陰性です。腎臓・尿路系や生殖器系に出血があると陽性となります。			
	ウロビリノゲン	健康な人でも、少量排泄しています。肝機能障害や溶血性貧血などのビリルビン生成亢進で排泄量が増加します。			
	尿比重	腎臓での尿の濃縮力を知る指標の一つです。			
	ビリルビン	通常は陰性です。肝炎、肝硬変、膵頭部癌、総胆管結石など黄疸の場合に陽性となります。			
	PH	食事や運動などの生理的要因により、変動します。			
	ケトン体	通常は陰性です。重症糖尿病、飢餓、嘔吐、下痢、妊娠悪阻、小児自家中毒などで陽性となります。			
血液一般検査	血算	WBC	白血球数	身体に侵入した細菌や異物を取り込み、消化・分解したり、免疫の働きをしています。白血球が増加したり減少したりすることは、身体のどこかに細菌などが入り込んだり炎症を起こしたりしていることを示しています。	
		RBC	赤血球数	体内に酸素を運び、二酸化炭素を受け取る働きをします。赤血球が減少しているときは、出血や貧血などの可能性があります。	
		Hb	ヘモグロビン	赤血球に含まれる色素で全身の細胞へ酸素を運ぶ中心的な役割を担っています。主に貧血の程度を示唆します。	
		Ht	ヘマトクリット	血液に含まれる赤血球の割合を%で表した数値で、貧血の程度の指標となります。	
		MCV	平均赤血球容積	赤血球の大きさの平均値で、赤血球の大きさがわかります。	
		MCH	平均赤血球ヘモグロビン量	赤血球の中に含まれているヘモグロビンの平均値を表します。	
		MCHC	平均赤血球ヘモグロビン濃度	赤血球容積に対するヘモグロビン量を表します。	
		PLT	血小板数	出血した部位に集まって止血する働きがあり、止血能力の指標のひとつとなります。	
	白血球分画	Neut Lymph Mono Eosino Baso	好中球 リンパ球 単球 好酸球 好塩基球	白血球には、好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球の5種類が含まれていて、種類ごとに数などを特定する検査です。形や働きが異なり病気によって増減し種類が変わるので、白血球の種類ごとの増減数を調べることで病気を診断する際の手がかりになります。	
	生化学検査	蛋白	TP	総蛋白	血液中のタンパク質の総量をあらわし、一般に健康や栄養状態の指標として利用されます。
			ALB	アルブミン	アルブミンは代表的なタンパク質の一つで栄養状態の指標になります。
		肝機能	T-BIL	総ビリルビン	ビリルビンは赤血球中のヘモグロビンの代謝産物で、種々の肝障害で増加します。増加すると黄疸の原因になります。
			ZTT	硫酸亜鉛試験(クンケル反応)	肝障害をみるための代表的な血清膠質反応です。慢性肝障害や多発性骨髄腫で高値となります。
			ALP	アルカリホスファターゼ	主に閉塞性の肝疾患時上昇します。その他、骨の破壊新生にも関連があり骨疾患の場合にも上昇することがあります。
AST(GOT)			アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	肝細胞、心筋、骨格筋に多く含まれている酵素です。	
ALT(GPT)			アラニンアミノトランスフェラーゼ	他臓器に比較し、特に肝臓に含まれており、肝細胞障害における特異性がASTに比べ高い酵素です。	
r-GT			r-グルタミルトランスフェラーゼ	アルコール性肝障害の指標に有用です。肝臓や胆道に病気がある場合に他の酵素より早く異常を示します。	
ChE			コリンエステラーゼ	主に肝疾患により低下します。有機リン剤による中毒でも低値となります。	
LD		乳酸デヒドロゲナーゼ	広く体内各臓器に分布する酵素です。肝、血液疾患などの指標となります。		
膵臓	AMY	アミラーゼ	膵臓や唾液腺より分泌される消化酵素で急性膵炎や耳下腺炎で上昇します。		

人間ドック検査内容のご説明

国立病院機構東京病院

項目			ご説明	
生化学検査	腎機能	UA	尿酸	痛風と密接な関係があります。関節に突然激痛が起こる病気が痛風で、足の親指に発症しやすいと言われます。
		UN Cre	尿素窒素 クレアチニン	腎臓の働きをみる検査です。腎臓から排泄される老廃物で、腎機能が悪くなると増加します。
	電解質	Na K Cl	ナトリウム カリウム クロール	血液中の電解質の濃度です。腎臓の病気やホルモンの異常、脱水などで増加したり、減少したりします。
		糖代謝	GLU	グルコース（血糖）
	HbA1c		ヘモグロビンA1c （NGSP）	過去1～2ヵ月間の平均血糖値を反映しているため糖尿病の患者さんの長期の血糖コントロール状態がわかります。
	脂質	T-CHO	総コレステロール	生体の主要脂質成分の一つです。高すぎると動脈硬化の危険因子となり、肝障害では低値となります。
		HDL-C	HDL-コレステロール	善玉コレステロールと呼ばれています。この値が低いほうが動脈硬化の危険が大きくなります。
		LDL-C	LDL-コレステロール	悪玉コレステロールと呼ばれています。この値が高いと動脈硬化の危険が大きくなります。
TG		中性脂肪	エネルギー源として重要ですが、高すぎると動脈硬化の危険因子となります。食後に高くなります。	
腫瘍マーカー	CEA	癌胎児性抗原	消化器系や肺など腫瘍全般の診断や治療の経過観察として検査します。	
	CA19-9	CA19-9	主に膵臓や胆道系の腫瘍を示唆する腫瘍マーカーとして検査します。	
	PSA	前立腺特異抗原	前立腺腫瘍マーカーとして検査します。前立腺肥大症や前立腺炎でも高くなるので鑑別が必要です。（男性のみ）	
	CA125	CA125	卵巣腫瘍、子宮体部腫瘍で高くなります。妊娠初期や月経時・閉経前などでも一過性に高くなることがあります。（女性のみ）	
感染症	CRP	C反応性蛋白	炎症や組織の損傷で上昇します。	
	HBs-Ag	B型肝炎ウイルス表面抗原	現在B型肝炎に感染しているかどうかわかります。	
	HCV抗体	C型肝炎ウイルス抗体	現在C型肝炎に感染しているか、または過去に感染したことがあるかがわかります。	